

巻機山・井戸尾根：梅雨の晴れ間を狙い

齊藤整紀

- 平成 27 年 6 月 19 日夜～21 日
- メンバー 齊藤整紀、村山隆・かずい
- コース

19 日 葛西 21:00 (車) ⇒ 0:30 桜坂駐車場 (小宴会・テント仮眠)

20 日 【井戸尾根コース 9 時間 30 分】
駐車場 6:00→8:20 六合目展望台→10:20 前巻機山→10:30 避難小屋→11:20 御機屋→11:30 最高地点→12:00 避難小屋 (昼食) 12:45→15:30 登山口 15:45 (車) ⇒ 16:00 民宿「雲天」

21 日 雲天 8:30 (車) ⇒ 9:10 塩沢・青木酒造 10:00⇒14:00 所沢 (野菜収穫) 15:15⇒16:45 葛西

【はじめに】

10 年ぶりの巻機山に誘われたが、人気の尾瀬の車を勘案、19 日夜に出て、当日は民宿泊、翌日早めに帰るプランで臨む。

6 月 20 日 (土) 晴れ時々曇り、のち雨の真夜中、石打 IC を降り、ナビを「巻機山麓キャンプ場」に設定し山村へ進む。零時過ぎにキャンプ場上の駐車場に着いた頃は、雨は上がり、アスファルトは濡れているものの、テントには差し支えない。

5 時に目覚めた頃は青空も出て期待に胸が膨らむ。朝食を摂り、テントを撤収し 6 時に出発。雑木林の湿った滑り易い径が続く。井戸の壁といわれる九十九折

の急登を登りきると五合目の焼松に至る。眼下の米子沢は雪渓に厚く覆われている。

五合目から林相がブナ林の明るいものに変わる。虫が出て、止まると寄ってくる。先の白山の場合よりも虫の量は増えている。六合目は割引岳方面に開けた展望台で、鋭利に天を指す天狗岩が目を引き。檜穴の段と呼ばれる急登、ゴロ石の悪路から、灌木が現れ、ようやく展望の利く七合目で、爽やかな風が渡る。

展望は前日の雨の影響で、どの山も頭に雲を頂いているが、谷川連峰方面は雪渓交じりの鋭角の山並みが美しい。笹の歩きづらい急登、ガレ場に木道が配備された径を詰めるとようやく「ニセ巻機山」の標識の立つ前巻機山へ着いた。次第にガスが流れ、尾瀬方面の峰々を覆う。

目の前に広がる巻機山本峰はたおやかにして雄大で、スケールが大きい。本峰には隔てられた谷を一旦下ってから上る。雪渓の左斜面に架かる木道を下ると、すぐ避難小屋に着く。綺麗な小屋だが、休むのは帰りだ。

水芭蕉などが咲く池塘を通り、階段状の急登を詰めると、御機屋という広場に至る。ここは山頂よりかなり低い地点であるが「巻機山山頂」の標識がある。以前はガレ場であったが、東京農大の協力で池塘の土壌改良を行い、土を運び上げて作った広場とか。途中の「七合五勺」

とか合目端数分の標識設置に一役買った東京学芸大登高会共々感心する話である。

花はまだ早いようで、ここの池塘の水芭蕉の他は、樹林帯のタムシバや山道のイワカガミ、ツガザクラ、タテヤマリンドウなど小さいものが散見された。牛ヶ岳の方向へ10分程先に1967mの最高地点がある。以前の荒れた山頂付近の自然を回復するため山頂表示を手前の御機屋に設けているとか。そのため最高地点は、標識もなく粗末なケルンに棒が立ててあるだけである。

前巻機山を振り返って、前回は足を伸ばした牛ヶ岳は省き、足の痙攣で先に避難小屋に戻った村山夫人の許へ急ぎ、昼食を摂り休息をとった。小屋は掃除が行き届き、トイレはバイオ処理されている。

下山は、すっかり曇ったせい、虫の大量発生に悩まされる。やがて小雨がぱらついてきた。六合目あたりから本降りになり、雨具上半身とザックカバーを付けた。かなり濡れ、転倒もあり、処置に困った頃、ようやく登山口に到達した。少し荷物整理をしてから宿に駆け込んだ。「山の宿 雲天」は清水へ少し下ったところにある。旧家を移築した豪壮な屋敷や囲炉裏端があり、手作りの山菜料理が素晴らしい。昔、田舎で食べた山菜も懐かしい。「鶴齢」の青木酒造のお膝元、何より酒が良い。食後、囲炉裏でおやじが大きな鉄瓶で沸かしたお茶を煎れてくれた。おまけに八海山の地酒を買ったら、鶴齢の地酒をくれた。急遽提出した私の山行計画に対する、島崎さんの「ウンテン最高！」のコメントの意味が分かった。

6月21日(日) 雨時々曇り

朝から雨。今日の登山を楽しみにしていた同宿の3グループは残念そうであった。夕べ、労山の悪口と百名山を肴に酒を飲んでいた彼らに対し、「私も労山に関りのある者だが、新基金は無尽とは違ふし、労山だって、タメになることもやっていますよ。」と口を挟んだものだから、朝は言葉透少なで、気まずく別れた。

この雨ならば尾瀬の車も大丈夫だろうと判断し、ゆっくりと朝出発し、塩沢駅・青木酒造の10時開店を待った。町並みを江戸の宿場をイメージして揃え、町起しに余念がない。時間まで一通り見て歩いたが、とても楽しいものであった。

青木酒造は時代を感じさせるシックな造りで、中央におカミさんが陣取り、店先には一式だけ品を並べ、用命があると店員が奥から出して、供する。お酒落！

ここで大家さんにも一本お土産に買い、あとはのんびりと、所沢の畑に寄って、帰宅した。道中、スムーズであった。

夜は足の不調で参加出来なかったわが妻の手料理で、我が家で反省会を行なった。酒はもちろん鶴齢と八海山である

新潟は山よし、酒よし、肴よし！（了）



巻機山最高地点にて